

国立西洋美術館（本館）について

1. 概要

国立西洋美術館本館は、日本に所在する唯一のル・コルビュジエ設計による建築である。

実業家・松方幸次郎の美術品コレクション（絵画、彫刻等）のうち、パリに保管され、第二次世界大戦後にフランス政府に押収されたものについては、1953年、その大半が日本国政府へ寄贈されることとなった。寄贈に当たっては、西洋美術の変遷が学術的に日本人々に伝わるような新美術館の建設が条件とされ、国立西洋美術館本館は、この条件を満たすために日本国政府が上野恩賜公園内に建設したものである。

設計者にはル・コルビュジエが選ばれ、建設にあたっては、ル・コルビュジエの下で学んだ前川國男、坂倉準三、吉阪隆正が設計補助ならびに現場監理を行っている。着工は1958年3月、竣工は1959年3月である。

国立西洋美術館は、陸屋根、正方形の平面形状、らせん状の回廊、展示品の増加に伴い渦が大きくなるように増床できる平面計画等、ル・コルビュジエによる「限りなく成長する美術館 (Musée à croissance illimitée)」の構想をよく現した作品として評価されている。ピロティー、屋上庭園、斜路、自然光を利用した照明計画等、ル・コルビュジエに特徴的な設計要素を随所に見せる点でも貴重であり、20世紀を代表する世界的建築家のル・コルビュジエの代表作品として、顕著な普遍的価値を持っている。

2. 遺産の種別

文化遺産のうち、記念工作物

3. 所在地

東京都台東区上野公園7-7

(正面)



(展示室)

